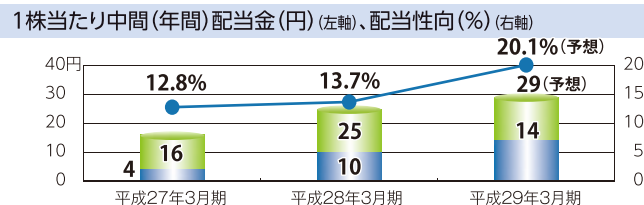
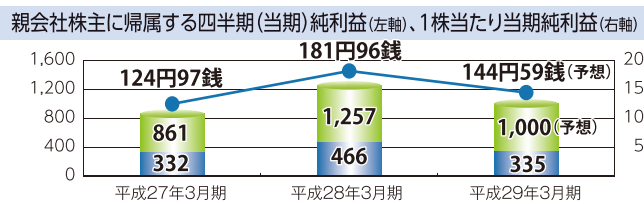
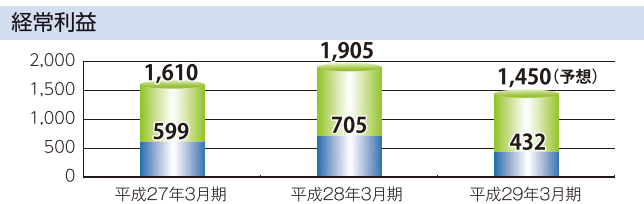
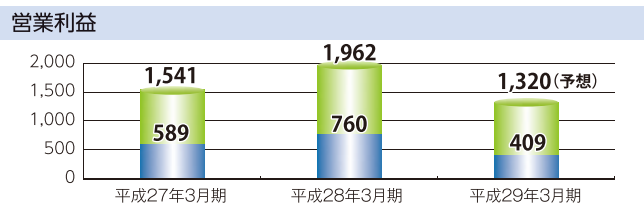
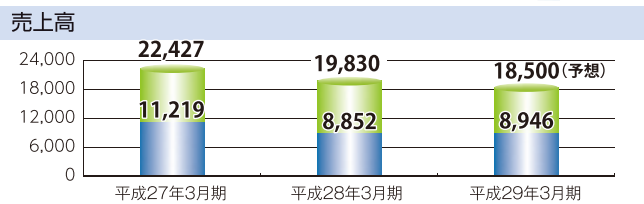


第2四半期 業績ハイライト

売上高	89億46百万円
営業利益	4億9百万円
経常利益	4億32百万円
親会社株主に帰属する四半期純利益	3億35百万円
1株当たり中間配当金	14円

業績推移 (単位：百万円)



※平成28年3月期から一部の連結子会社を持分法適用会社に変更いたしました。

四半期連結貸借対照表 (単位：百万円)

	前期末 平成28年3月31日現在	当第2四半期末 平成28年9月30日現在
資産の部		
流動資産	13,807	13,684
固定資産	2,673	2,811
有形固定資産	1,990	2,125
無形固定資産	63	47
投資その他の資産	619	638
資産合計	16,481	16,495
負債の部		
流動負債	5,552	5,375
固定負債	590	539
負債合計	6,143	5,915
純資産の部		
株主資本	10,061	10,300
その他の包括利益累計額	20	38
新株予約権	53	54
非支配株主持分	202	187
純資産合計	10,338	10,580
負債純資産合計	16,481	16,495
1株当たり純資産	1,457円74銭	1,490円55銭

自己資本比率(連結)

	前期末 平成28年3月31日現在	当第2四半期末 平成28年9月30日現在
自己資本比率(連結)	61.2%	62.7%

四半期連結損益計算書 (単位：百万円)

	前第2四半期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	当第2四半期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	8,852	8,946
売上原価	7,338	7,646
売上総利益	1,513	1,299
販売費及び一般管理費	753	890
営業利益	760	409
経常利益	705	432
税金等調整前四半期純利益	706	469
四半期純利益	432	321
親会社株主に帰属する四半期純利益	466	335
1株当たり四半期純利益	67円60銭	48円44銭

会社概要

会社概要 (平成28年9月30日現在)

商号

株式会社テノックス

設立

昭和45年7月8日

資本金

17億1,090万円

従業員

165人(連結259人)

本社

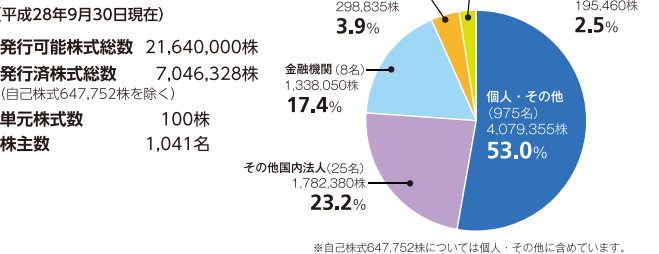
〒108-8380
東京都港区芝五丁目25番11号 ヒューリック三田ビル5F
TEL.03-3455-7758

役員体制

(平成28年9月30日現在)

代表取締役社長	菱山 保	執行役員	坂口 卓也
取締役常務執行役員	佐藤 雅之	執行役員	斎藤 光則
取締役執行役員	田中 啓三	執行役員	高橋 勝規
取締役執行役員	齋藤 貴	執行役員	倉島 孝
取締役執行役員	堀切 節	執行役員	児玉 勝久
取締役(監査等委員)	里見 雄冊	執行役員	又吉 直哉
取締役(監査等委員)	大森 勇一		
取締役(監査等委員)	竹口 圭輔		

株式の状況 (平成28年9月30日現在)



株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
住商セメント株式会社	432,000	6.13
有限会社福田商事	384,000	5.44
株式会社みずほ銀行	331,980	4.71
三菱商事株式会社	317,020	4.49
テノックス従業員持株会	310,740	4.40
明治安田生命保険相互会社	253,000	3.59
樺澤 憲行	233,840	3.31
太平洋基礎工業株式会社	230,000	3.26
株式会社三井住友銀行	220,220	3.12
三井住友信託銀行株式会社	220,000	3.12

※当社は、自己株式647,752株を保有しておりますが、上記大株主より除外しております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

環境と共存し、確かな技術力で
社会と暮らしを支える

Tenox REPORT

47th

第47期 第2四半期

株主通信

平成28年4月1日～平成28年9月30日

株式会社 テノックス

証券コード 1905

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第47期第2四半期株主通信「Tenox REPORT」をお届けし、連結決算の概況をご報告申し上げます。

代表取締役社長 菱 山 保



第2四半期の業績と通期見通しについて

当第2四半期の経営環境は、高水準の企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に民間設備投資は堅調に推移する一方で、公共投資は緩やかな減少傾向にありました。

当社グループにおきましては、道路インフラ工事など大規模な杭工事の完成が下期に見込まれるなかで、住宅や商業施設の地盤改良工事を数多く完成できたことにより、売上高は89億46百万円と若干ながら前年同期を上回ることができました。利益につきましては、前年同期における施工効率の高い杭工事が減少したものの、地盤改良工事の売上高の増加に加え採算が向上した結果、営業利益は4億9百万円、経常利益は4億32百万円、親

会社株主に帰属する四半期純利益は3億35百万円となりました。

今後、年度後半に向け大規模な杭工事が順次完成し、また地盤改良工事におきましても好調に受注を伸ばしてきております。このようななか、「施工品質の向上」と「安全管理の強化」を進めるとともに原価管理の徹底により利益の確保に努めてまいります。

中長期の方針について

当社の商品のなかでもテノコラム工法は、長年にわたりお客さまにご愛顧をいただいておりますが、その長年の技術の集大成として「テノコラムECO工法」を今般発表いたしました。大きな特長は、品質の一層の向上と建設コストの縮減を実現していること、さらには発生残土を抑制したとても環境にやさしいという点であり、進化した地盤改良工法として注目され始めております。この新生工法の普及にしっかりと取り組むことで、テノコラム工法の歴史に新たなページを刻んでまいります。

一方、当社の杭事業の主たる工法は鋼管を材料としており、従来は大型物流倉庫や高速道路のジャンクション等の大規模工事案件への採用が殆どでしたが、今後はコンパクトな施工機器の使用により中小規模の案件にも市場を拡大するべく検討を開始いたしました。具体的には、建築案件では中規模のオフィスビルやマンション用途を、土木案件では中小規模の橋梁や鉄道の高架化や架け

替えの需要を新しい市場として開拓してまいります。

このように、私どもの工法はすべて確かな技術に裏打ちされており、自信をもってお客さまにお届けをしておりますが、そのご信頼をより確かなものとするために工事現場で実施している施工内容を「見える化」し、現地・現在・現物でご確認をいただくための新しい管理計器の開発を進めております。この開発もできるだけ早くいたします。

また、これらの商品とは少し事業形態の異なるピュアパイル工法については、順調に進展しており、平成28年9月末現在の累計実績は25,000棟を超えました。これからも更なる技術開発を進め戸建て市場における普及のスピードを上げると同時に、新しい用途も模索し市場の拡大に繋がりたいと考えております。

株主の皆さまへ

最近の頻発する自然災害の被害に遭われた方々の報に接するたびに胸が痛むのと同時に、何としてもその被害を最小限に留めるべく、私どもとして最大限の努力を続けていかなければならないとの意を一層強くいたしました。改めまして、「人」や「貴重な財産」を守るという使命感を持って事業の運営に当たってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、私どもの「環境と共存し、確かな技術力で社会と暮らしを支える」との理念をご理解賜りまして引き続きのご支援をお願い申し上げます。

News & Topics

アオザイの国 ベトナムより

昨年10月、ベトナムに現地法人“TENOX ASIA”を設立し、早いもので約1年が経ちました。日本とはあまりにも違う環境のなか、何をするにも初めてのことばかりで右往左往の連続でしたが、皆さまのご支援のお陰をもちまして一周年を迎えることができました。“シンカームオンニャウ”（本当にありがとうございました）

“TENOX ASIA”の主な事業は基礎に関わる製品や施工の販売であり、なかでも建築基礎として地盤改良工法「テノコラム」を当市場に普及させるべく営業活動を積極的に行っております。



(9月19日 ハノイ市にて撮影)

本年の9月から10月に、「テノコラム」の当国での公的認証の取得を目的として、関係機関と共同で試験工事を実施しました(上の写真はその時に撮影したものです)。

この試験の結果は良好であり、当地における私どもの事業が飛躍するための第一歩になると社員一同意気込んでおります。

皆さま、今後とも引き続きまして“TENOX ASIA”へのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

TENOX ASIA
General Director 清水 夢成